

お米の魅力を伝える発信基地を目指す！ (有)鍋八農産（弥富市）

事業者概要

- 所在地：弥富市鍋田町稲山 393 番地 15
- 代表者：八木 輝治
- 設立年：平成 10 年 1 月
- 経営規模：水稻 140ha、作業受託 40ha、小麦 50ha、大豆 5 ha、WCS（デントコーン） 9 ha
- 売上高：約 3 億円
- 雇用者数：常時雇用者数 15 名、臨時雇用者数 8 名



取組概要

- 【生産（1次）】水稻、小麦、大豆等の生産。農業生産と環境保全に配慮した農業生産方式の導入。
- 【加工（2次）】おにぎり、弁当、餅等は自社加工施設「やぎさんちの台所」及び自社店舗「おにぎり商店きはち」で製造。お米の石けん、化粧品、ハンドクリーム等は委託製造（OEM）。
- 【販売（3次）】米は地元スーパーや飲食店等、ECサイトで販売。おにぎり等は自社店舗、弁当は企業や病院等、餅は地元の産直で販売。お米の石けん等は自社店舗やECサイトで販売。

取組までの経緯

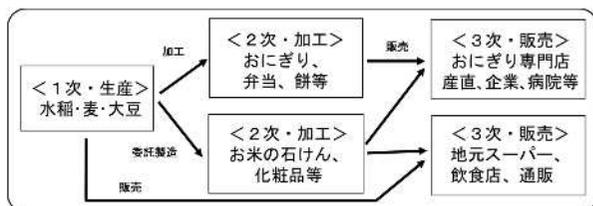
料理好きの母親が丹精込めて栽培した餅米を活用したいと、平成 9 年に餅や箱ずしの製造・販売を始めた。その後、平成 26 年の大幅な米価下落により米の売上が低迷したため、自分たちで価格を設定できる加工販売事業に乗り出し、お米の消費拡大を図るために、平成 27 年におにぎり専門店をオープンした。

取組の特徴、強み

美味しい米を食べてもらいたいと、おにぎりや弁当等の原料となる「米」にこだわる。「苗の生産から消費者の口に届くまで」を、一貫して自社で行う。米は、環境に配慮した安全・安心な栽培に務め、美味しい米の生産に取り組んでいる。餅の原料となる餅米は、のび、こし、ねばりが優れている品種「はぶたえもち」を自社栽培している。地域の声を聞くことを大切にし、商品に活かしている。

消費者のニーズに対応できることが強み。小回りが利き、企業や病院、子供会やお祭り等の予約注文・販売、アレルギー対策にも細かく対応できる。

ビジネスモデル ・連携図



取組の課題

- 消費者ニーズに合わせた新しい商品の製造や開発。
- 米の生産や加工に関する作業の効率化、ブランド化。
- 美味しい米を食べてもらうための「米の情報発信基地」の整備。

課題解決の方法

- 社員と定期的に話し合いを行い、随時、情報の共有をしている。年齢や学歴に関係なく、意見が言い合える環境を作っている。社員以外のパートやアルバイトともコミュニケーションを取り、課題を解決している。
- トヨタ自動車の IT 管理ツール「豊作計画」を導入し、効率的かつ安定した農業生産を実践するとともに、自社店舗（おにぎり商店きはち）においても食材の在庫管理方法を改善し、成果が出ている。
- 農山漁村発イノベーションサポートセンターの支援を受け、新たな事業計画の作成に取り組んでいる。米を通じて、消費者がワクワクできる仕組みが満載の「米の情報発信基地」を整備する。

取組の効果

事業を行ったことで、地域に雇用を創出し、若者や女性が活躍できる場を設けていること。自社で商品価格を設定できることから、米の価格変動に影響されることなく、安定した収入を確保できること。

活用した支援策

- 農山漁村発イノベーションサポート事業（R4）



今後の展望

【短期】

米の魅力を伝え、米を消費できる情報発信基地を作る。米粉パンなど新しい事業に取り組む。

【長期】

米を活用して、食べ物だけではなく、飲み物、肌に触れるもの等の商品開発を行い、売上を伸ばす。

取組者のコメント

6次産業化の取組は、経営に関する知識が必要だと思う。まずは、いろいろな知識を習得してから取り組むと良い。お金と時間もかかる。

農業生産の売上だけでいいという人は別。より高みを目指す人には、違った面白みもある。

自分が生産した原料に、これまでの経緯を踏まえ、自分の想いを乗せて取り組めば、やっただけの成果が得られる。

